

12. 譲渡会 / 個別譲渡

定期的に開催する「譲渡会」スタイルが一般的ですが、あらかじめ講習会を受けてもらったうえで、希望者の要望や猫の収容状況に合わせて随時個別に猫を紹介する「個別譲渡」スタイルをとっている自治体もあります。それぞれの利点を理解して、臨機応変に進めていきましょう。

譲渡会

子猫を中心とした譲渡会が最も多く開催されています。休日であれば家族で来所しやすく、譲渡を進めるには効果的ですが、開催にあたって気をつけたいこともあります。

- 1 講習会と譲渡会が同日開催であっても、かならず先に講習会を受けてもらいましょう。先に猫を紹介してしまうと、その猫に夢中になり講習がおろそかになりがちです。
- 2 猫のストレスにも配慮しましょう。賑やかな会場で、多くの見知らぬ人々に見つめられたり抱かれたりするのは、猫にとってはストレスになります。室内の比較的静かな場所を選び、ケージから出す際にもパニックになり脱走するようなことがないように猫の状態を見ながら慎重に行いましょう。また子どもには「大声を出さない・会場を走らない・急に猫に触らない」などていねいに説明しましょう。
- 3 譲渡会では子猫は緊張して普段の活発な様子を見せないことが多いため、「おとなしいし大丈夫だろう」と思って連れ帰ったところ、家に慣れた途端にあまりの活発さに飼い主が辟易してしまう、ということもあります。普段の様子を携帯電話の動画などに撮っておいてみてもらうのもいいでしょう。



譲渡会の様子



猫も緊張

個別譲渡

事前に講習会を受けてもらった上で「譲渡希望者リスト」に登録し、随時ふさわしい猫を紹介する方法です。

職員が個別対応しこまかく猫についての情報を伝えることができ、希望者が落ち着いて猫を見られるため、適切なマッチングにつながり、最近はこちらのスタイルを採用している自治体も増えています。

猫が慣れた場所（時々自由に放して遊ばせるプレイルームなど）で静かに接してやれば、猫もいつもどおりの可愛い表情を見せてくれるでしょうし、落ち着いた雰囲気の中で猫の室内飼育の必要性や方法を伝えることもできるでしょう。成猫の譲渡はまだ実施している自治体は少ないですが、こうした個別譲渡を行うことで、それぞれの猫の性格にあった譲渡を行うことができるでしょう。



遊ばせながら猫とお見合い

室内飼育モデルルームで自由にくつろぐ猫を紹介！



奈良県うだ・アニマルパークにある桜井保健所動物愛護センターでは、譲渡候補の猫を「室内飼育モデルルーム」で日中は生活させています。ここは家庭のリビングを再現したようなスペースで、猫が上下運動のできる家具や猫のトイレ、猫の好きそうなクッションやおもちゃもあり、こうすれば室内飼育がうまくいくというモデルルームになっています。譲渡希望者はこのモデルルームに入室して、おもちゃで遊んだりかわいい寝顔を見せたりする猫たちと自由にふれあいながら、我が家にふさわしい猫を決めることができます。猫たちのストレスにも配慮して、入室できる人数や年齢、時間を制限していて、それ以外の来客はガラス越しの対面になります。

猫たちの普段の姿をみせることで譲渡希望者を増やし、室内飼育の啓発にもなる「にゃん友ルーム」。センターのシンボリック存在にもなっています。

譲渡事業のPR ～ 子どもたちへの動物愛護教育プログラム

各自治体では小中学校の授業に招かれて、愛護教育プログラムを行う機会も増えています。未来を担う子ども達に、現状を知ってもらい命の大切さや動物愛護の精神を深く伝え、動物愛護事業、譲渡事業の潜在的なサポーターになってもらうことを目的にしています。たとえば名古屋市動物愛護センターでは、学校に招かれて行う「動物愛護教室」ではふれあいに加えて、処分される動物の現状をスライドを使って分かりやすく子ども達に説明しています。また、小学校から大学生・専門学校生などを対象にセンターで開催される「動物愛護教室」（年間1300人を超える若者が参加）では、犬猫との触れ合い体験に加えて処分されている動物のデータを示し、希望がある場合は管理棟の抑留施設などを見学してもらっています。もちろん譲渡の話もして「動物を家族に迎えたいと思ったら、センターから」という選択肢を子供たちから家族や周囲の人にも伝えてもらうことで問い合わせも増えてきているそうです。

